

歴史の授業づくり三〇年と 日露戦争の授業

日本が好きになる！歴史全授業研究会

さいとう
齋藤 武夫
たけお



■「授業」と「教科書」の両論

日本海海戦一二〇年。昭和一〇〇年。戦後八〇年。・・・自由主義史観研究会三〇年。それが歴史授業改革運動始まりだった。翌年新しい歴史教科書をつくる会が立ち上がり、授業と教科書の両輪がそろった。中学校歴史教科書はすでに立派なものができている。7回の検定に合格して教育内容の基本が整った。授業づくりの方はどうか。こちら「日本が好きになる！歴史全授業」(齋藤)や安達弘・服部剛などの「日本人としての誇りを育てる歴史授業」がそろっている。これらの授業は誰が授業をしても同じ結果が出る「再現可能な授業」になっていて全

国で追試実践が広がっている。両輪とも三〇年で結果を出したといえる。

■失敗した「革命物語

「周年」話で横道にそれてしまったが、本稿は日本海海戦一二〇周年記念なので日露戦争の授業づくりの話を書いてみたい。

三〇年前、教科書の「近現代史」はこういう物語で書かれていた。

「江戸時代がうまくいかなかったところ、黒船が来た。日本の経済がめちゃくちゃになったので志士たちは世直しに立ち上がった。幕府を倒した彼らは、しかし世直しという目標を忘れてしまい戦争が強い悪い国をつくってしまった。日

清・日露の侵略戦争をやり、最後は日中戦争・太平洋戦争という愚かな侵略戦争を起こしてアジア諸国に多大な迷惑をかけた、最後は膨大な死者を出して焼け野原になって日本は戦争に負けた」

明治維新は「市民革命」をモデルにした失敗した革命物語にされた。その後は東京裁判の勝者が書いた歴史が教科書に書かれていた。

■私たちの教える日露戦争

私たちはこれをおよそ次のように修正してきた。

「近現代史とは西洋の白人列強が世界中の有色人種を奴隷化する歩みだった。東南アジアが植民地になり、清国も風前



の灯火だった。この巨大な流れに抗して独立を果たしたのがほかならぬ日本だった。日本は日露戦争に勝って世界の有色人種地域の希望になった。しかし有色人種で独立を果たしたのは日本だけだった。孤独な日本は独立を守るために列強の一員となり、第一次世界大戦後世界の五大国にのし上がったが、その後たった二五年で焼け野原になってしまった。その要因は様々あるが、ベースにあったのは。日本は『白人帝国主義の仲間』なのか『アジアの仲間』なのかという国家アイデンティティーの分裂だった」

日露戦争は、明治日本が真に独立して欧米帝国主義国家と対等な地位に上るか、それともロシアに滅ぼされて植民地になるのかという、分岐点に位置した運命の戦争（祖国防衛戦争）だった。日露戦争の授業はそういう先人の運命の物語が熱く伝わるものでありたい。それだけを考えて授業をつくった。

■当時の「常識」を知ることで、始めて歴史を理解する

日清戦争の授業で山県有朋首相の「主

権線と利益戦」の演説を理解させる。山県は他国領土を自国の安全保障ライン（利益線）とみなすという当時の列強の常識で考えている。子供達の常識をここまで持つて来なければ日清日露の授業は成り立たない。そうでないと、ロシアの南進が祖国防衛という命がけの話にならないからだ。そうしておいて、小村寿太郎の日英同盟論と伊藤博文の反対論と読み比べる。指導者の大勢は日英同盟を選択した。そうして授業のクライマックスが来る。ロシアの朝鮮工作と港湾建設等で瀬戸際まで来た。日本海の制海権をロシアに渡してからでは遅い。ここでロシアと日本の気の遠くなるような国力比較グラフを読む。子供たちの表情は俄かに陰る。そこで問う。

「君たちが政府のリーダーの一人だったらどちらを選ぶか。 A 直ちに開戦する。 B 戦争は避ける」

黒船来航以来の愛国の熱が子供達の中に燃えているので議論ははげしく沸騰する。AもBも一人一人の愛国心が選ばれる選択だからだ。ひとしきり討論した後に史実を教える。

日本海海戦の勝利に子供達は胸を熱くする。しかしポーツマス条約の授業でそれが薄氷の勝利だったという真実を知らなければならぬ。やがて不平等条約全面改正という明治日本のゴールがやって来る。

日露戦争後、日本は「白人と対等な国」どころか世界の五大国にのし上がっていく。中国や東南アジアの植民地から留学生や独立運動家が出てくる。日本は植民地独立運動の基地の様相を呈し、日本国民の多くが彼らを応援するようになった。しかしその後も孤独な日本は「帝国主義列強」の一員としてしか生き残る道はなかった。

小中学生にこんな授業をやってきた。いまは先生方に授業を伝えている。



たぶん「新しい歴史教科書」を採択しただけでは中学生の心に劇的な変化と成長は起きない。採択した学校の授業が変わること、現場の教師一人一人の授業が変わることが必要だ。採択を求めながら「採択の次」も考えるようにしたい。